

新規問い合わせ続々と。リアル展示会への期待高まる!

国内最大級の「危機管理」総合トレードショー 今秋10月の開催へ6月末まで出展申込受付中

本年10月11日(水)から13日(金)の3日間、東京ビッグサイト西1・2ホールにて「危機管理産業展(RISCON TOKYO) 2023」及び「テロ対策特殊装備展(SEECAT) 23」が開催される。3月に開催から数えて今回が19回目の開催。「危機管理」分野の展示会の先駆けとして毎年開催している。「防災・減災」「BCP・事業リスク対策」「セキュリティ」の主要3分野を中心に、我々の生活やビジネスのあらゆる場面に潜むリスクへの備えや危機対応を提案。官民のあらゆる業界の出席者と来場者の商談・情報発信・交流により「危機管理」ビジネスという新たな産業を創出してきた。

主要3分野を中心に あらゆるリスク・危機に対応

RISCONは2005年の初開催から数えて今回が19回目の開催。「危機管理」分野の展示会の先駆けとして毎年開催している。「防災・減災」「BCP・事業リスク対策」「セキュリティ」の主要3分野を中心に、我々の生活やビジネスのあらゆる場面に潜むリスクへの備えや危機対応を提案。官民のあらゆる業界の出席者と来場者の商談・情報発信・交流により「危機管理」ビジネスという新たな産業を創出してきた。

主要3分野には出展者と来場者をつなぐキーワードとして「特別テーマ」を設定。加えて、3分野を横断する注目分野として「危機管理DX・サイバー対策ソリューション」「危機管理ドローンソリューション」の2つを併催企画として設定する。社会活動を取り巻く喫緊の課題や社会的要請、来場者からの要望や旬な話題などを元に見直し再編した「特別テーマ」や「併催企画」は、連動したセミナーや企画展示を実施することで出展者と来場者のピンポイントで効率的な商談を後押しする。

防災・減災

日本列島に地震頻発

5月に入りゴールデンウィークの真っ最中に石川県能登地方を襲った震度6強の地震を皮切りに千葉、北海道、鹿児島と全国各地で大地震が多発。急務となっている南海トラフ地震や首都直下地震といった大規模災害に対する備えや

防災・減災の取り組みも加速されそう。

RISCONの主要3分野の一つ「防災・減災」分野でも、関東大震災から100年をテーマにしたセミナーや主催者企画を準備しており、今年もさまざまな自然災害の脅威から命を守り、被害を最小限に抑えるための製品・サービスが集結する。



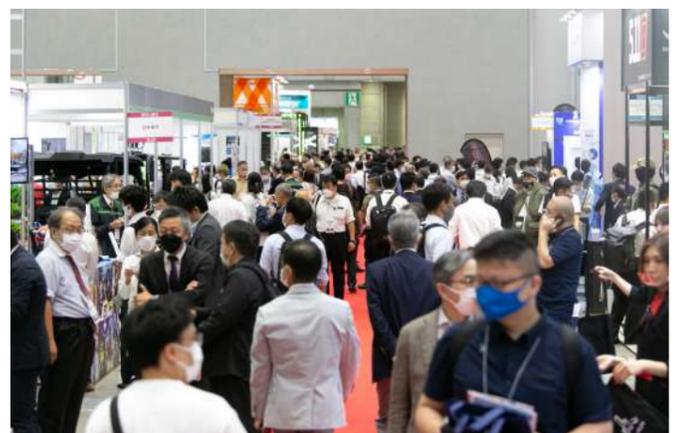
災害対策に各社・団体が注力

東京都中小企業振興公社は、独自の防災技術を持った都内中小企業を多数紹介するパビリオンを形成。今年も大規模出展を決めた。総務省消防庁も展示とセミナーで研究開発成果を発表する。サイテックスは濁った水も安全な飲料水にする浄水器、帝健は特殊繊維を用いた安全対策・防災製品、テレネットは災害用通信手段の提案、トヨヨーセフティーはヘルメットや各種安全保

護具を展示する。大石製作所は新製品のアンカーレス固定具を展示、イズワンのポータブルソーラー蓄電池、日本総合施設の非常用電源、テクノグリーン販売の非常用階段避難車の実演にも注目が集まりそう。他にも災害対策車両を展示するサポートマーケットイングサービス、水害対策品を出展する船山などの常連組のほか、初出展となる消防救助技術開発は倒壊建物からの救助で社会に貢献する。

特別テーマで集中展示

首都直下地震や南海トラフ地震を見据えた「災害に強いまちづくり」と「避難所・備蓄品/帰宅困難者対策」、各種災害への対応力を高める「防災情報発信・防災アプリ」の3つを設定。備蓄向け段ボール製品を提案・実演する関西ペイント、避難所の赤ちゃんを守るコンビウイズ、真空圧縮製法による備蓄製品の提案をする足立織物、長期保存レトルト食品を出展する幸源、最短5分で設営できるテントを出展するトライヤアルミフレームの避難所用間仕切りを出展するナガエが早々に出展を決めた。災害時のLPGの備蓄や発電機を提案するエルピーガス振興センターのほか、減災機能とにぎわい創出効果の両立を提案するコトブキ、備えない防災を、変形して実現するサカセ化学工業、海外からはILCDove r(シンガポール)の初出展も決まった。災害時のエレベーター対策と飲料水対策を提案するエイアンドエイティ、大地震から下水道を守る福原鑄物製作所、専用アプリでデータの可視化を提案するアルインコの出展にも注目したい。



BCP・事業リスク対策

官民でBCPの見直し進む 問われる企業の危機対応

自治体や企業が今すぐ取り組むべきリスクを考える「BCP・事業リスク対策」分野。コロナ禍で激変した生活様式とビジネス環境によりBCPの見直しは官民問わず必須となっている。今回「緊急時の電気・水・エネルギー確保」、「緊急時の通信確保・安否確認」、「工場・災害現場の安心・安全」の3つを特別テーマとして設定し、ピンポイントなマッチング成立を後押しする。

A1解析で従業員ヘルスケア対策を提案するメッツ、アシストスーツで工場・災害現場の安心・安全を提案するユーピーアール、アスベスト法改正の対応を提案する日本トリート、感染症対策のアイテックス、備蓄品のトータルサポートを提案する船山、事業継続で活躍する人材を育成する事業継続推進機構、従業員の交通安全意識を高めるJAFメディアワークス、事業継続支援アプリケーションのオールシンソリューション、非常時でも活用できるイリジウム通信のアリオンジャパンなど注目の出展が揃う。大規模災害時のエネルギー供給をサポートする三和エナジーは昨年引き続き大規模ブースでの出展

セキュリティ

多発する凶悪犯罪・重大事故 業務効率化人手不足解消力

相次ぐ要人を狙った殺傷事件、東京銀座での白昼堂々の貴金属強盗、公共交通機関や大型商業施設での無差別犯罪など全国で刃物や銃器を使った凶悪事件が多発しており、パブリックスペースやオフィスビル、店舗の安全対策が喫緊の課題となっている。今年のセキュリティ分野では「パブリックセーフティ」、「ビル・オフィスのセキュリティ」、「ロボット・バーチャル・AI警備」の3つを特別テーマに設定した。コロナによる制約もなくなり、外国人観光客が急増、不特定多数が集まる大型イベントなども続々と開催されており、安全対策にも力が入る。本展に出展される新しいセキュリティ機器やサービスに期待が高まる。

クマヒラは昨年に引き続き、入室管理、隠匿物検知、AI画像解析などを出展。A1警備のアジラは満を持して初出展を決めた。スリッダー、レッツ・コーポレーション、三協エアテックは独自の監視・警戒システムを提案する。エミックスは各種機材を守るケース、ファロージャパンは事故現場や犯罪現場をスキャンする3Dスキャナーを出展する。アイテムが出展する依存症リスクも検査する薬物検査キットにも注目したい。

主要3分野には、特別テーマと連動した主催者企画も準備中(中面で紹介)。出展者が無料で活用できる様々な企画を数多く用意しており、事務局では積極的な参加を呼び掛けている。

先端技術の『危機管理』分野への応用活用進む

DX推進、サイバーセキュリティ、ドローン活用 主要3分野を横断的に提案する注目企画

長期化したコロナ禍がようやく落ち着いてきた。コロナを経験したことで世界中の人々の生活やビジネスが大きく変わり、我が国でもデジタル化を加速させた。IoT、ロボット、AI、ビッグデータを駆使した新たなビジネスが次々と誕生し、あらゆる産業において「DX推進」が必須となっている。ドローンの活用もますます広がっている。特に災害大国と言われる我が国では防災分野でのドローン活用に大きな期待が寄せられている。

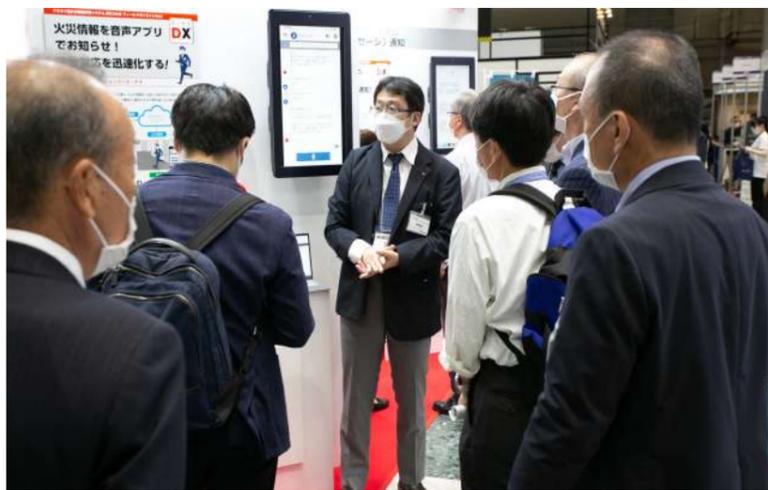
RISCIONでは、『危機管理DX・サイバー対策ソリューション』と『危機管理ドローンソリューション』を併催企画として設定した。新たな業界の出展者と来場者の出会いにより危機管理分野における新規ビジネス創出を目指し、展示の充実を図る。

危機管理DX・サイバー対策ソリューション

DX推進と表裏一体 サイバーセキュリティ強化必須

あらゆる業界で「DX推進」が重点キーワードとなっている。また、DX推進を進めるうえで表裏一体とも言えるサイバーセキュリティへの取り組みも緊急課題となっている。RISCIONに来場する危機管理に高い意識を持った行政・自治体関係者や企業経営層にとっても関心の高い分野の一つだ。防災分野における情報収集やリスク予測、被害情報の管理やセキュリティ分野におけるDX化を提案する。

この分野では、スカイホエール、ワールド防災センターの新規出展が決定。



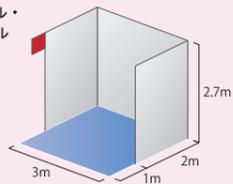
海外からは昨年に引き続きSeerist(アメリカ)の出展も決定した。他にも通信大手企業など多くの企業が出展を検討しており、さまざまなDX化の提案を見ることができそうだ。本分野の出展プランにはブース展示に加えてプレゼンテーションがあらかじめセットされている。

ブース展示とプレゼンテーションの相乗効果で 確かな出展成果を実感!

①出展ブース

9m²/小間(間口3m×奥行き3m)

- サイドパネル・バックパネル
- 小間番号板



②出展者プレゼンテーション

- 会場: 会場内特設ステージ または特設ルーム
- 時間: 45分または60分
- 収容予定数: 100名程度(予定)

※プレゼンテーション会場をご選択いただけます。
※講演実施枠は希望を受け付けますが、重複があった場合、事務局にて調整を行います。
※小間数に関わらず1社・1セッションとなります。

危機管理ドローンソリューション

レベル4で活用シーン拡がる 危機管理分野への取り組み加速

「ドローン」の危機管理分野への活用が大いに期待されている。災害時にお



ける被災状況、避難状況の把握、被災地への医薬品や救援物資の輸送、また、河川やダム、トンネルや橋梁などの重要インフラの点検や監視など、防災分野だけではなく、セキュリティ分野などにも活用の幅は広がっている。危機管理分野に特化した本企画への注目度は高く、国内外の機体メーカーやアタッチメントメーカー、通信会社、活用サービス会社など様々な分野で展示内容の検討が進められている。

大型ドローンで空から課題を解決するJDRONE、災害時の活用で最適な国産ドローンを展示するエアロセンス、災害対策や消防活動に活用できるスピーカー搭載ドローンを提案するクオリティソフト、簡単に24時間監視が出来る有線ドローンをPRする

出展者・来場者マッチング企画(出展者参加無料)参加募集中!

危機管理実演・体験コーナー

展示会場内に出展者専用の実演スペース(約100㎡を予定)をご用意します。自社ブースでは実現できない広いスペースを存分に使ったデモンストレーションが可能となりますので、ぜひご利用ください。ロボットの実演、VR・AI活用提案、ウェアラブル機器体験、保安用品の装着体験などの実演が可能な出展者の参加を広く募集します。新製品発表会にも活用可能。メディアの注目も抜群です。



募集内容: 「防災・減災」「BCP・事業リスク対策」「セキュリティ」に関わる製品・機器の実演

例) ●危機管理分野におけるロボットやドローンの活用提案

- 危機管理分野におけるAI技術やVR技術の実演
- 従業員のヘルスケア対策・業務効率化の実演
- 車両・バイク・パーソナルモビリティなどの活用提案
- 労働安全に関わる資機材・サービスなどの実演・装着体験ほか

実演時間: 各社1枠30分(準備から撤去までを含む)

関東大震災から100年 主催者特別企画 ～100年目の今、あらためて都市型防災を考える～ 来場者参加型企画展示の募集

2023年は関東大震災から100年という節目の年。今後予測される大規模災害への対応をあらためて考える機会として、テーマと連動したセミナーや情報発信を実施。避難所資機材の組み立て実演や災害時のトイレ体験、AED体験、防災アプリ体験など、来場者参加型のさまざまな体験型企画を募集します。



募集内容: 今後予測される大規模地震に対応するための製品・サービスの展示・実演

例) ●避難所の環境改善に関する設備・機器・資機材の実演・体験

- オフィスの帰宅困難者対策に関する設備・機器・資機材の実演・体験
- 避難・救助・救急医療に関する機器・資機材の実演・体験
- 避難訓練・安否確認・防災アプリの実演・体験
- 防災関連車両等の試乗体験 など

常設の展示エリア内に製品・サービスの展示スペースをご提供します。「実演」「体験」を通して広く来場者へPRが可能です。

来場を後押しする多彩な企画、セミナーを用意!

Air LineXが出展を決めている。Norfolk JapanはGPSの届かない視界が限られている中での高精度な水中ナビゲーションを提供する。今回は自社ブースとは別に約100㎡の実演スペース「危機管理実演・体験コーナー」を活用したドローン実演も復活しそうだ。本分野にも大手通信会社等が出展を予定しており、昨年以上に盛り上がりそうだ。

一方で、同時開催する「テロ対策特殊装備展(SEECAAT)」にもドローン関連の出展が増えており関心の高さがうかがえる。ドローンの便利な活用がますます進む一方で、新たな問題も発生している。SEECAATではドローンが活躍する社会におけるリスクと有効な対策についても取り上げる。アンチドローンを提案するロボティクス・センタージャパン、地上付近の低高度で接近するドローンを検出するライダー装置を提案するメトロウエザー、ドローン探知レーダーを出展する日本通信エレクトロニクスなどの展示を通してドローンセキュリティや新しいリスクについても周知する。「危機管理」の総合トレードショーならではの提案が見られそうだ。



主催者特別プラン

併催企画には専用の

初出展者限定特別プランを設定

併催企画「危機管理DX・サイバー

対策ソリューション」、「危機管理ドローンソリューション」のいずれかに出展する出展者を対象に特別プランを用意している。プレゼンテーション付きプランはそのままに展示スペースをコンパクトにした初出展者限定プランとなっている。事務局では新たな出展者



併催企画 初出展者専用

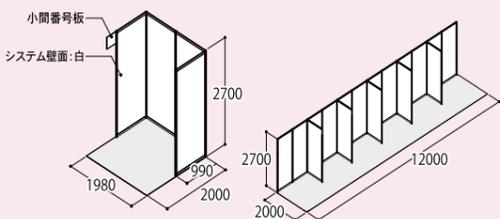
主催者特別プラン

出展料金: **217,800円** (税込) / 1小間

4m²/小間 (間口2m × 奥行2m)

「危機管理DX・サイバー対策ソリューション」
「危機管理ドローンソリューション」
いずれかへ出展する新規出展者限定の特別プランを設定します。

※過去にRISCON、SEECAATに出展実績がある企業はご利用できません。



昨年、のべ4558名が聴講したセミナーは全セッション聴講無料。来場誘致企画の目玉となっている。初日のオープニングを飾る「日本の危機管理」をテーマにした基調対談を皮切りに3日間で30セッション超のセミナーを予定している。

スペシャルカンファレンスほか
充実のセミナープログラム

が増えることで来場者の選択肢も拡がり、展示会の魅力にも繋がることから、併催企画への出展を検討する企業・団体の担当者には、特別プランも選択肢に含めて積極的な参加を呼び掛ける。

4年ぶりにコロナ禍の制約のない開催となる今回は来場者の来場動機付けとなるセミナーや展示会場でしか味わえない体験企画などを多数用意して出展者と来場者のマッチングを促進する。「危機管理実演・体験コーナー」は、自社ブースでは行えない様々な実演を約100㎡のスペースを使ってダイナミックにPRできることで毎年好評となっている。ロボットやドローンを使ったデモのほか、VR・AR活用提案、ウェアラブル機器体験、装着体験企画などが想定されている。

「防災・減災」分野は、「関東大震災から100年特別企画」と題して情報発信企画を計画中。関係機関とのタイアップによるセミナーや企画展示では避難所資機材の組み立て、災害時のトイレ、AED、防災アプリ体験などの来場者体験企画を出展者から広く募集する。「BCP・事業リスク対策」分野では、「災害時のEV(電気自動車)活用実演・体験」を予定。自動車メーカー等によるEV実車を使った電源活用実演に注目が集まりそうだ。「セキュリティ」分野では「次世代警備ソリューション 実演・体験」を企画。警備業界の業務効率化や人手不足解消に貢献する最新ソリューションをPRする予定となっている。その他にも「セキュリティサポーター」「感染症対策サポーター」として出展者から提供された資機材を展示会スタッフが会期中に活用するなど、出展者と来場者の商談を後押しする。

災害時の電気自動車活用 実演・体験

災害時の避難所や病院などの電源確保を想定した電気自動車(EV・FCV)の活用を提案。実車を使った実演・電源活用など、来場者参加型体験企画を募集します。

募集内容: 災害時における電気自動車の活用提案
車両展示・実演

常設の展示エリア内に実車と実演に必要なスペースをご提供します。「実演」「体験」を通して広く来場者へPRが可能です。

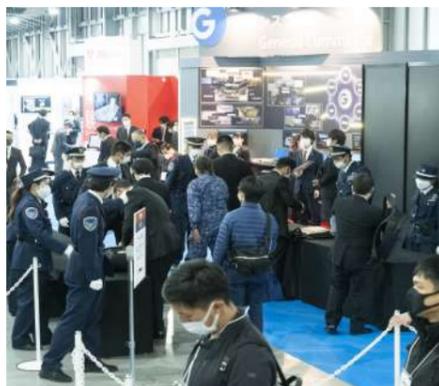


次世代警備ソリューション 実演・体験

会場内を巡回する警備ロボットの提案やバーチャル警備、AI警備のデモなど、来場者参加型体験企画を募集します。警備に関する業務効率化・人手不足解消に貢献する最新ソリューションを会場全体でPRします。

募集内容: 警備に関する最新ソリューションの展示・実演
例) ●警備ロボットの实演
●バーチャル警備の体験
●セキュリティゲート、認証システムの体験 など

常設の展示エリア内に実演に必要なスペースをご提供します。「実演」「体験」を通して広く来場者へPRが可能です。



BCP策定・見直し 支援・相談

福祉施設などで義務化が進む「BCP(事業継続計画)」。コロナ禍を経験し、あらゆる業界でBCPの見直しが喫緊の課題となっています。BCP策定・見直しについて提案・相談が可能な出展者の情報を事前公開して、ブースへと誘導します。

募集内容: BCP・BCM 策定・見直し・
運用相談・提案

参加各社の PR ポイントと提案内容を公式WEBサイト、印刷物などで公開します。

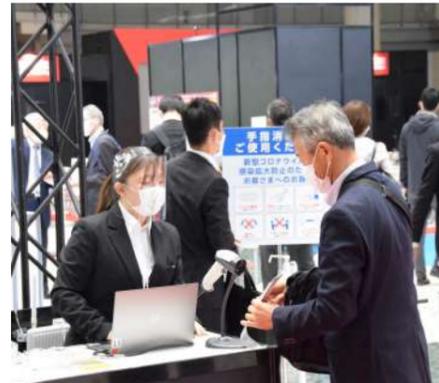


セキュリティ/感染症対策サポーター

展示会場のセキュリティ対策や感染症対策に役立つ設備、資機材、配布品などを募集。提供頂いた製品を開催当日に会場運営スタッフが活用し紹介することで来場者へ広くPRします。

募集内容: 展示会場内で使用可能な感染症対策・
セキュリティ資機材、配布品

ご提供いただいた製品の PR ポイントと詳細を公式WEBサイト、印刷物などで紹介します。



RISCON TOKYO 特別併催企画展

SEECAT テロ対策特殊装備展'23

Special Equipment Exhibition & Conference for Anti-Terrorism NEWS Vol.1

10.11(水) 10.13(金) 東京ビッグサイト 西2ホール

発行元: SEECAT事務局
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
 大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内
 Tel. 03-3503-7641 Fax. 03-3503-7620
 E-Mail ofc@seecat.biz
www.seecat.biz

国内唯一の『テロ対策』専門展示会に注目集まる

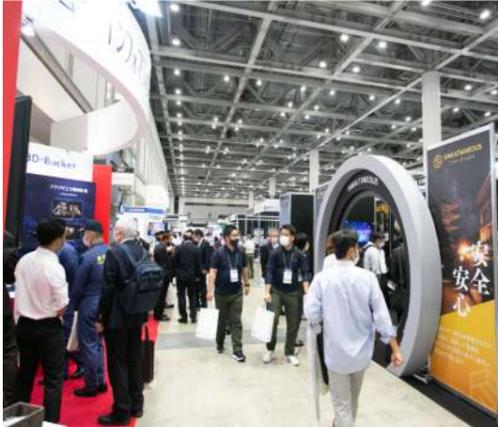
G7広島サミットは厳戒態勢のもと終了 2年を切った大阪・関西万博の準備待ったなし

主要7カ国首脳会議(G7サミット)は、二万四千名の警察官が動員された厳戒態勢のもとで開催され、ウクライナのゼレンスキー大統領の対面参加というサプライズがあった中で、大きなトラブルなく、無事に閉幕を迎えた。今回のG7サミットは、ウクライナ情勢や国内で相次いでいる要人を狙った凶悪事件により、警戒警備、セキュリティ対策に大きな関心が寄せられた。

また、2025年大阪・関西万博の開業までいよいよ2年を切っており、世界中の国際イベントを狙ったサイバー攻撃や外国人観光客が急増する中での港湾警戒・水際対策、公共交通機関や大型商業施設などのソフトウェアゲッター相次ぐ北朝鮮のミサイル発射実験や台湾有事への懸念等、不安定な世界情勢も踏まえ、国内唯一のテロ対策専門展示会『テロ対策特殊装備展(SEECAT)』への注目がよりいっそう高まっている。

最新のテロ対策資機材が集結 昨年を大きく上回る勢い

SEECATは、RISCONのセキュリティ分野から派生した特別併催企画展として2007年にスタート。今年で17回目の開催を迎える。今年もRISCONと同日程での開催。一番の特長は厳正な入場審査。警察・消防・自衛隊・入管・税関などの治安関係者や政府・自治体関係者、エネルギー・交通などの重要インフラや大型商業施設などの危機管理担当者、施設管理者などテロ対策に携わる関係者に来場を限定するクローズドショーとすることで、出展者との確実なマッチングを実現。その満足度の高さから出展者・来場者ともにリピーターが多いのも大きな特長となっている。



今回も常連組の出展が続々と決定。監視警戒システムを提案する三井物産エアロスペース、空間情報システムのインフォマティクス、小型衛星通信装置と衛星車両を展示する

エーティコミュニケーションズ、特殊装備を提案するセキュリティ・ドローンを中心とした沿岸警備を提案する日本海洋、爆発物検出、無線信号識別装置のRSダイナミックスなどが早々に継続出展を決めた。RISCONの常連出展者日本デジコムは今回初めてSEECATで衛星通信機器をPRする。



近年注目度の高いEMP(電磁パルス)対策ではテクノサイエンスシステムズ、日本オートマティクス・コントロール、シミュレーター・トレーニング機材のフジタ医科器械、Bohemian Interactivative Simulations、リーダー設計製造のアルウェットテクノロジ、モバイルフォレンジックのMSAB Japan、赤外線カメラによる監視技術を提案するケン・オートメーション、国内初披露のセキュリティ機器の実演を予定しているオプテックス、高速データ処理レコーダーの日本コントロールシス

テム、高輝度サーチライトのジャパソセル、特殊装備を出展する日本工機、MILITARYなども継続出展となった。

新規・復活出展の問い合わせも多い。侵入防止対策製品を提案する応緑、照射距離6400mの携帯型サーチライトを出展するレイギアーズ、海外からもCovidence(デンマーク)、SQUAREHEAD TECHNOLOGY(ノルウェー)も初出展を決めた。

重要インフラ向けに特化 サイバー・フィジカル・セキュリティ

社会インフラや産業システムが多様なネットワークを介してサイバースペースと連結され、データ連携により様々な付加価値やサービスを創出する中、サイバー攻撃の脅威はサイバースペースだけでなくフィジカル空間を合わせたあらゆる産業活動に潜む。社会基盤である重要インフラは、その機能が利用不可能な状態に陥った場合には、我が国の社会経済活動に重大な影響を及ぼすこととなる。政府は情報通信、金融、電力、ガス、医療などの重要インフラ14業種に対して、サイバー攻撃への体制強化とサイバーチェインを含めた情報セキュリティ対策への取組等を要請し、国民における防衛態勢を強化している。

今秋のSEECATでは重要インフラ向け「サイバー・フィジカル・セキュリティ」を特別テーマに設定して、出展者と重要インフラ関係者との確実なマッチングを支援する。本企画にはAI映像解析カメラを出

展するボッシュセキュリティシステムズ、同じく自社開発CMOSカメラを提案するモスウェルが初出展。海外からはAxon Public Safety(オーストラリア)の出展にも注目したい。



テーマ展示にも注目 万博向け最新資機材が集結

SEECATでは、出展者と来場者の確実なマッチングを実現するためのテーマ展示ゾーンを設定。今回は2025年大阪・関西万博へ向けたマッチングを支援する「ロボット/ドローン活用・対策」「港湾警戒・水際対策」「ソフトウェアゲッター対策」「CBRNEテロ対策」の4テーマとした。開催の6か月間で海に囲まれた会場に世界中から約2820万人の来場者が予想される国際ビッグイベントには、さまざまなリスクが想定されており「安心・安全」への準備は大詰めを迎えている。

ロボットを活用した公共安全を提案する東北エンタープライズ、ドローン活用・対策を提案するロボティクス・センタージャパン、メトロウエザー、日本通信エレクトロニクス、港湾警戒・水際対策を提案するアルゴ、東陽テクニカ、ロジック・アンド・デザイン、ソフトウェアゲッター対策を提案するハナイ、CBRNEテロ対策のイオンインターナショナル、理研計器には万博へ向けた関係者の期待が高まる。

出展検討中の企業も多数あり、次号では今回紹介しきれなかった出展者を一挙公開予定。6月末の出展申込み切までに展覧はさらに大きく増えそうだ。

Risk Control in Tokyo

RISCON TOKYO

危機管理産業展2023
Security & Safety Trade Expo

自然災害に備える

防災・減災

特別テーマ

- 災害に強いまちづくり
- 避難所・備蓄品/帰宅困難者対策
- 防災情報発信・防災アプリ

あらゆるリスクを考える

BCP・事業リスク対策

特別テーマ

- 緊急時の電気・水・エネルギー確保
- 緊急時の通信確保・安否確認
- 工場・災害現場の安心・安全

犯罪・事故から守る

セキュリティ

特別テーマ

- パブリックセーフティ
- ビル・オフィスのセキュリティ
- ロボット・バーチャル・AI警備

国内唯一の

「テロ対策」専門展示会

RISCON TOKYO 特別併催企画展

SEECAT

Special Equipment Exhibition & Conference for Anti-Terrorism

テロ対策特殊装備展'23

特別テーマ

重要インフラ向け
「サイバー・フィジカル・セキュリティ」

「主要3分野」を横断的に提案する 併催企画

あらゆる業種の重要課題 → **危機管理DX・サイバー対策ソリューション**

様々なシーンでの活用拡がる → **危機管理ドローンソリューション**